

令和5年度第2回島田市総合教育会議会議録

日 時	令和6年1月25日（木）午後1時30分～午後2時50分
会 場	島田市役所3階 大会議室
出席者	染谷市長、山中教育長、高杉委員、原委員、磯貝委員、森下委員
欠席者	
傍聴人	20人
説明のための出席者	佐藤市長戦略部長、鈴木観光文化部長、小松原教育部長、中村戦略推進課長、佐藤文化振興課長、村田学校教育課長、浅岡スポーツ振興課長、岩尾学校教育課主席指導主事、滝井学校教育課指導主事
議 事	学校部活動及び地域クラブ活動の今後の在り方について

開 会 午後1時30分

佐藤市長戦略部長 それでは、定刻になりましたので、ただいまから令和5年度第2回総合教育会議を開会いたします。

はじめに、染谷市長から御挨拶をいただきます。

市長、お願いいたします。

染谷市長

皆様、こんにちは。座ったままで失礼させていただきます。

皆様におかれましては大変お忙しいところ、当会議に御出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

本日の議題は、学校部活動及び地域クラブ活動の今後の在り方についてであります。

スポーツ庁及び文化庁により、令和4年12月に学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドラインが策定されまして、中学生の望ましい成長を保障できるよう地域において持続可能で多様な環境を、一体的に整備することとしています。学校部活動は生徒が望む多様なスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる場であるとの認識をいたしております。

一方で、少子化による生徒数の減少と、それに伴う教員数の減少、教員の働き方改革等により、現在の学校の部活動の体制を今後も維持することは、困難になってきております。

そこで、本日は皆様から忌憚のない御意見、御提案をいただきながら、学校部活動及び地域クラブ活動の今後の在り方について、しっかりと議論してまいりたいと考えております。どうぞよろしく願いいたします。

以上です。

佐藤市長戦略部長

ありがとうございました。

続きまして、山中教育長から御挨拶をいただきます。よろしくお願

山中教育長

いします。

皆様、こんにちは。本日の総合教育会議では、市長から話がありましたように、学校部活動及び地域クラブ活動の今後の在り方についてということで、教育委員の皆様にもいろいろ御意見を出していただきます。

教育委員の皆さんは市内の小中学校に学校訪問をする中で、子供たちの様子を見て、現在の学校教育に必要な体験等についても、いろいろな思いをめぐらせてくださっています。

今回のテーマの中でも、特に休日の学校部活動と地域クラブ化については、文科省からもいろいろと指導がありましたので、昨年度から何度もこのテーマについて、私たちだけで勉強会を行ってきました。また学校教育課の指導主事からも話を聞いております。

そのような中で、教員の働き改革の必要性も十分理解しております。ただ、教職員の超過勤務の現状等を考えれば、何とかしないとイケないという思いを持ちながら、子供たちの視点に立って部活動をどうしていったらいいのかといったところも、しっかり考えていかないとイケないというふうに思いますと、なかなか難しい問題を含んでいるなというのが、私たちの思いです。

また、教育委員さんはそれぞれ中学校時代、高校時代に部活動を経験されていますので、自分の思いから部活動の意義等についても持論があります。島田市教育委員会としましては、現在、学校教育課、スポーツ振興課、文化振興課、そして校長会等が連携しながら今後の休日の部活動の在り方等を考えています。

本日は教育委員の皆様にも部活動の地域化について、今後どのように考えていったらいいのかというお考えを出していただきながら、いろいろな考え方の方向性を探っていけたらというふうに思っております。

今日は皆様の思いや、そして御意見を市長に聞いていただきまして、今後の方向性をどのようにしていったらいいかを、一緒に考えていただければというふうに思います。このような機会をいただきまして誠にありがとうございます。では本日よろしく願いいたします。

以上です。

佐藤市長戦略部長

ありがとうございました。

それでは、これより議事に入りますので、以降の進行については市長をお願いいたします。

市長よろしく願いいたします。

染谷市長

はい、かしこまりました。

では、次第に従いまして議事を進めさせていただきます。

本日の議題は、「学校部活動及び地域クラブ活動の今後の在り方につ

岩尾学校教育課主
席指導主事

いて」になります。資料について、まず学校教育課から説明をお願いいたします。

学校教育課です。よろしくお願いします。

お手元の資料を御覧ください。1から5の視点があると思いますが、1から5について資料が書かれています。併せてパワーポイントでも資料を説明していきたいと思います。

それでは1番目、趣旨についてです。

部活動は非常に意義のあるものとされています。生徒がスポーツや文化芸術に親しむ機会がある、責任感や連帯感といった人間性の向上や人間関係の好ましい構築ができる、こういったよさがあります。

一方で課題も出てきています。少子化の進展により、今の学校単位では運営が困難であるということも出てきています。学校や地域によっては、存続も厳しいということもあります。さらに、教員の働き方改革に伴い、今の部活動体制でいいのかという声も上がってきています。

このような声に、スポーツ庁、文化庁が学校の部活動に代わるものとして、生涯にわたり生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむ機会を確保してもらいたい。

さらに地域の子供たちは地域で育てるという理念の下で、そのような活動を担保してもらいたい。そして、そういう環境を整備してほしいというところから、先ほど市長からもありましたような、ガイドラインが出てきております。

資料1になります。

資料1のガイドラインの中では、4本の柱が整理されています。その中でも2番目と3番目の柱について、簡単に説明させていただきます。

2番目の柱、新たな地域クラブ活動。学校部活動の維持が困難となる前に、学校と地域との連携・協働により、生徒の活動の場として整備すべき新たな地域クラブ活動の在り方を示すとなっています。

ここでは、地域スポーツ・文化振興担当部署や学校担当部署、関係団体、学校関係者を含めた協議会などの体制の整備を言っています。ここについては島田市において、連絡協議会というのを令和5年度に立ち上げています。

さらに3番目の柱では、どのように移行していくかという環境整備について触れられています。

主な内容としましては、まずは休日における地域の環境の整備を着実に推進となっています。さらに、段階的な体制の整備を進めてもらいたいということになっています。

いきなり地域クラブというものではなく、地域クラブ活動が困難な場合は、合同部活動の導入や部活動指導員等による機会を確保してほ

しいとされています。

これを簡単な図で書きますと、今ある学校部活動がそのまま地域クラブ活動に行くのではなく、学校部活動も地域連携というものを、一度段階的に入れてやったらどうかと言われています。

学校部活動の地域連携等は、具体的には部活動指導員または合同部活動といったものを利用したらどうかというものになります。また後ほど説明させていただきます。

国はこのガイドラインに合わせて、次のようなモデル図も出しています。

休日の地域クラブ活動では、市がスポーツ協会や文化協会、大学等と連携や委託をしながら、そこが地域クラブ活動を各々立ち上げ、そこに各中学校から生徒が入っていくパターン。

市がスポーツ協会、文化協会と連携する際は、コーディネーターという立場を入れてもよいということも言われています。

さらに、総合型地域スポーツクラブや民間事業が、そのまま地域クラブを立ち上げ、そこに生徒が入っていくパターン。主に大都市が多いとされています。

このようなパターンに持っていくことが難しい場合は、学校部活動の地域連携を活用したらどうかということです。

1つの学校の1つの部活動に、教員ではない部活動指導員を地域人材として入れてやっていったらどうかというパターン。

さらに1つの学校では、チームが組めないような状況がある場合、2つ、3つの中学校が合わさって、合同の部活動を作り、そこに部活動指導員として、地域の人材を入れて活動していったらどうかというパターンもありますので、こちらを国は段階としてやっていってもいいと言っています。

続きまして、島田市の学校部活動等の現状について触れていきたいと思います。

今の島田市立中学校の部活動の数は、多い学校で18、少ない学校で5つの部活動が用意されていますが、選択肢について平等性がないのではないかという声もあることが事実です。

続いて、少子化の問題です。

令和5年度の生徒数と10年後、令和16年度の生徒数を推計で出したところ、減少率としては約18%減少していきます。それに伴いまして、クラス数も減っていきます。13学級減るという計算になりましたが、20%程度減ります。

そうすると、今後10年間で、極端に生徒数が減少する学校もあり、幾つかの部活動が存続できないのではないかという可能性が高まってきています。

続いて教員の働き方改革、働き方についてです。問題になっている

のは、時間外勤務時間になります。

通常中学校は、平日の場合は4時に帰りの会が終わり、4時10分頃から部活動が開始されます。現在は5時半で5時45分には完全下校となっていますが、この間、教員の4時半以降の勤務については、時間外勤務時間となっています。

併せて、土曜日、日曜日等の休日については、どちらか1日の活動を原則としていますが、3時間から4時間程度の部活動への勤務となります。ここも時間外勤務時間となります。

国は教員の働き方改革で、月45時間以内に時間外勤務時間を収めましようと言っていますが、全国の数字になりますが、それを超える割合が、小学校は64.5%、中学校77%という結果になっています。

また、教員の働き方と、お金の関係もありますが、なぜ部活動は少ない費用負担で実施できていたのかというところについては、教員がプライベートの時間を削って、わずかな手当で支えてきたからという事実もあります。

実際、今は勤務時間終了時刻以降は報酬がありません。休日においては3時間以上の活動をした場合、特殊勤務手当として2,700円が支払われています。ただ、ユニフォームだとか、審判着だとか、シューズ、交通費等は全て教員の自腹となっています。

島田市で今行っている内容としては、合同部活動というものがあります。

例えば、初倉中学校、川根中学校、金谷中学校では野球や女子バレーにおいて、合同部活動を組んでいます。この3つで1つの部活動として考え、そこに現在は教員が指導に入っていますが、今後は部活動指導員や希望する地域の方にお任せできないかと考えています。

メリットとしましては、選択肢が拡充されたり、部員が確保されたり、競技経験者による指導ができたりということが挙げられます。

さらに島田一中、二中では、現在、野球において合同部活動となっています。大会でも非常に優秀な成績を上げて、今度全国大会に出場すると聞いています。

さらに部活動指導員と外部指導者についても触れておきます。部活動指導員とは、学校教育法施行規則に基づいて、校長の管理・監督を受けて、部活動の技術指導や大会引率を行うことができる者となっています。つまり教員ではないですが、部活動を単独で指導したり、大会引率ができたりする人ということです。島田市では、現在3人の部活動指導員を配置しています。

外部指導者につきましては、現在20人おります。市単独です。こちらは部活動の技術指導を行う人となっております。部活動指導員との違いは、単独で指導や生徒引率するということができないということになっています。

話題に上がっています新たな地域クラブ活動ですが、市内の6つの中学校に、島田市にある附属中学校も入れて、市内全域を対象にクラブを設立するやり方もありますし、北部地区、南部地区というような形でエリアに分けて、新しいクラブを作って、そこに生徒が入ってくるというようなパターンも考えられるかなと思います。

ただ、ここで気をつけなければいけないのは、そこは学校管理外の活動となっていくということでもあります。指導者として考えているのは地域の指導者や希望する教職員を考えております。

続きまして、アンケート結果となります。

資料2になりますが、実際に小学校5、6年生とその保護者、中学校1、2年生とその保護者、市内の小学校の教員、中学校の教員、それぞれにアンケートを採って実態調査をしました。その結果を簡単に報告します。

まず小学校5、6年生に対して、中学生になったら、「部活動などの活動に組みたいですか」という質問に対し、約83%の児童は、組みたいと考えています。

では、「どのような活動に組みたいですか」という質問に対して、スポーツの場面においては、今部活動としてある陸上だとかバスケット、卓球は多いのですけれども、バドミントンやダンスという部活動にないものもやってみたいという声がありました。選択肢を広げるチャンスでもあるというふうにも考えます。文化系については、美術、パソコン、科学といったニーズも確認ができました。

「中学校に入って、どういう気持ちでそういうクラブ活動をやりたいですか」と聞いたところ、技術を高めたいという児童と、楽しく活動したいという児童は、同じ割合でほぼ半々いるということが確認できました。

続いて、中学校1、2年生です。「休日に部活または地域クラブ活動していますか」とについては、86%の生徒が何かしら活動しているということが分かりました。

「同じように地域クラブ活動になった場合、どのようなものに参加してみたいですか」という質問では、今ある部活動に参加したいのはもちろん多く出てきているのですが、小学生と同じようにバドミントンやダンスといったものにもニーズがありました。文化系においては、科学、パソコン、演劇といったことも出てきていました。

「部活動が地域のクラブ活動になった場合に期待することはありますか」というところで、気軽に楽しく活動したいという割合が一番多く、レベルに合った指導をしてほしいという割合も多くなっています。

「地域クラブの指導者はどういう人がいいですか」というところについては、専門的な技能や知識、資格を持った指導者に教わりたいと

いう生徒が、約半数となっています。

続いて小学生の保護者ですが、「お子様が休日の地域クラブに所属することを希望した場合どう思いますか」という質問に対して、81%の保護者は、賛成するとしています。

「期待することは何ですか」という質問に対しては、専門的な指導や中学校の部活動にないものを選べる、選択肢が広がるなどに期待が高まっています。

逆に、「心配なことがあればお答えください」ということで、運営の補助や送迎、移動手段や経済的な負担という、保護者の負担というところについての割合が多くなっていました。

「月々かかる費用としては、どの程度だと適当だと考えるか」というところでは、3,000円以内と答える保護者が半数を占めています。

中学生の保護者にも同じように聞きました。「地域クラブ活動に所属することを希望した場合」は81%が賛成をします。

「期待することがあれば」ということでは、専門的な指導が一番高く、その次に同じ割合で中学校の部活動にないものを選べる、選択肢が広がる、新たな人間関係が形成されるということも確認されています。

逆に、「心配なことは何ですか」という問いには、やはり運営補助や送迎の保護者の負担、あとは経済負担、移動負担等が挙げられています。費用負担についても、3,000円以内というのが約半数、48.3%となっております。

小学校の教員ですが、「指導に関わりたいですか」という質問に対し、66%の教員は、関わりたくないと答えています。32%の教員は、依頼されれば検討するという回答をしています。中学校の教員は60%が関わらない、関わりたくない。28.6%が依頼されれば検討するとしています。

簡単に総括しますと、子供については、学校部活動を含め多様な種目、場所や機会を求めています。

技術を高めたいという反面、楽しく活動したいと面も確認できました。

保護者については、子供たちの希望を優先したいと考えています。多様な活動場所や機会があると大変ありがたいと考えています。ただし、負担になることは心配をしています。お金については3,000円以内を望んでいます。

教員については、やはり今の体制では、なかなか今の部活動を続けていくということは難しいのではないかという声も聞かれています。

以上からも、島田市においても、やはり今の学校部活動の体制ではなかなか持続可能とは言えない状況と考えています。

以上から、まずは部活動の学校単位という枠組みを少し考えていか

なきやいけないという点と、地域に展開する新たな仕組みが必要だということが、島田市でも言えるのではないかと思います。

それを受けまして、私たちは連絡協議会を立ち上げいろいろと話し合いを進めてきました。

連絡協議会は専門会議と代表会議と2つに分けて話し合いをしてきています。専門会議は15の団体の方に来ていただき、主にどのように地域クラブ活動が立ち上げられるだろうかというところを基に話をしています。

代表会議につきましては、もう少し俯瞰的に広く見ていただくというような役割で話をさせていただいています。連絡協議会は年2回開催しています。

併せて、事務局が個別に意見交換をしているということもあります。それぞれの団体によって実態が違うので、一律にこうしますと言ってもなかなかうちではできないとか、うちではできるという、こういう話になるので、それぞれにおいて事務局が連絡を取りながら話をしているということになります。今後もこの調整については、やっていかなければいけないと感じています。

その中で今動いている具体的な構造として、4つほど紹介します。

Aパターンとしましては、月に1回程度、地域でスポーツ教室、教員ではない人があるスポーツを指導しています。そこには市内の中学校の部活動の生徒が入ってきています。そこで、教員ではない指導者からいろいろと教わり、それを自分の学校に持ち帰っていくという、こういうようなパターンも出てきています。

同じようですが、地域のスポーツ教室を月1回程度行い、そこには学校の部活動だけではなく、他のクラブなどにも入っている中学生にも声をかけ門戸を広げています。こういったことを考えている団体もあります。

続いて協会が実際に保護者を主体として、練習や大会参加をしているという団体もありました。

Dパターンですが、これは川根中学校のコンセールギャザーとの吹奏楽です。ここについては部活動の顧問はいますけども、そこに部活動の外部指導者も一緒になり、さらに地域の指導者もそこに入り、一緒になって指導したり演奏したりしながら活動しています。

昨年、おおりに行われました吹奏楽フェスティバルでは、コンセールギャザーとして出ていただきまして、非常に子供たちも、コンセールギャザーの皆さんたちも、いい感想をいただいております。このように可能性のある動きも出てきているということです。

ただ、やはり課題もありまして、資料3にありますように、ここにあるような課題が出てきているのも事実です。形が大きくなっているものについては、やはり声も大きく上げられているという課題になってお

ります。詳しくは資料を御覧ください。

最後です。今後の予定ですが、令和5年度につきましては、新たな地域クラブ活動の連絡協議会を発足しました。総合教育会議も開催していただき、御意見をいただきたいところです。

令和6年度、7年度、8年度に、ここを移行期としまして、令和9年度の夏、中体連の大会が夏にあるので、その夏以降には、休日における学校部活動については、完全に廃止をしていきたいという目標を持っています。

その間に、連絡協議会を継続で開催し、さらに合同部活動を推進していったり、部活動指導員を拡充していったり、併せて地域クラブを実際に作っていったりということを考えています。

それに伴って、また平日の部活動についても見直しをする。もしくは少子化に伴い学校の部活動の数についても見直しをしていく必要があると考えています。

以上となります。ありがとうございました。

ありがとうございました。

ただいま学校部活動及び地域クラブ活動の今後の在り方について、教育委員会から説明がありました。御意見、御質問などありますでしょうか。

どなたか発言して下さる方がいらっしゃいましたら、お願いいたします。いかがでしょう。

磯貝委員、お願いします。

大変難しい問題ですけども、今の中でこれまでいろんな団体のところで個別に打診をしているという状況のようですけども、例えば生徒からバドミントンとかダンスといったような要望も出ています。これについては、ざっと見たところ、そういう団体が無いみたいですけども、そこら辺のところについてちょっと教えていただければありがたいです。

お願いします。

既存中学校にある部活動に関係する団体などに投げかけをしている段階でして、まだバドミントンといった団体までは話し合いが持たれていないような現状であります。

以上です。

ありがとうございました。

ほかにはいかがでしょうか。

高杉委員。

今の説明を聞いて、それぞれの部活で、既に工夫しながら運営をしているということが分かりました。

最近ほかの市町の地域クラブ活動について、新聞でも記事を見るようになりました。見ると島田市はどうだろうというのが、とてもい

染谷市長

磯貝委員

染谷市長
浅岡スポーツ振興
課長

磯貝委員
染谷市長

高杉委員

染谷市長
岩尾学校教育課主
席指導主事

つも気になるのですが、今実際のお子さんがある保護者や児童生徒などには、何かこういう進捗状況などを報告しているのでしょうか。また、今後どのように報告をしていくのか教えてください。

事務局、お願いします。

令和6年度に中学校に入学する児童・保護者に対して、新入生説明会というものが各中学校でこれから開催されていくのですが、そこでは事務局が出向きまして、現状や地域クラブ活動に向けての動きを説明していきたいと思っています。

なかなか一律に説明できないところもあるので、説明することができるようになり次第、保護者や教員にも周知をしていきたいと考えています。

よろしいですか。

はい、ありがとうございます。丁寧な説明をまたお願いします。

原委員、お願いします。

大変丁寧な資料ありがとうございました。

外部指導者が現在20名いらっしゃるということですが、この20名の方たちは、現在学校でどういう部活に関わっているのか。そして、またいつの時間に活動なさっているのか。この方たちは、部活指導員に変われる可能性があるのかどうかというのが1点と。

それから今ある地域クラブの活動連絡協議会に所属している団体で、それぞれ実態が異なり、課題もそれぞれであるという説明がありましたが、課題が今現在はどうのようなことが挙げられるのか、教えていただければありがたいです。

事務局、お願いします。

染谷市長
滝井学校教育課指
導主事

外部指導者のことについてお答えしたいと思います。まず外部指導者が今後その部活動指導員に変わっていくかどうかということについては、外部指導者への研修会を毎年開いているところですが、その中で部活動指導員も研修会に呼びまして、同時に話をしているところです。

そういった中で外部指導者が、部活動指導員、もしくは部活動指導員が状況によっては、今後外部指導者になっていく。とにかく部活動の指導をしていくということについて、いかなる形かで学校の部活動に御参加できるようにということで、お話をさせていただいているところです。

ですので、中には部活動指導員になりたいという思いをお持ちの方がいらっしゃるけれども、何ら不思議ではないというこういった状況がございます。

また、各学校の部活動に担当されている外部指導者の種目の種類についてですが、基本的に各学校から要請があった部活動に配置をするような状況です。全て列挙するのは差し控えますが、例えば野球で

染谷市長
浅岡スポーツ振興
課長

あったり剣道、卓球、それから弓道、こういったものに配当をしているところで、市内の中学校の部活動の多くに配置をしている状況がございます。

スポーツ振興課、お願いします。

団体ごとに実態が異なり、課題もそれぞれあるというところで、これまで各団体とお話してきた例ですけれども、団体名は伏せさせていただきたいと思いますが、ある団体であれば、組織自体が高齢化による人員不足で、中学生の受け入れはできないという団体もありました。また、参加団体に働きかけて、受け入れ先を何とか確保できないか話し合われている団体もございます。

また、ある団体は何とかなりそうだが、場所に問題があるというところで心配されている団体もあります。

すごく積極的な団体もあることも事実であります。

以上です。

染谷市長

よろしいでしょうか。御理解のほうは、いいですか。

磯貝委員

磯貝委員。

先ほど部活動の指導員と外部指導員のお話を解説してもらったのですが、例えば、地域移行に行くその途中で、外部指導者の方々を部活動の指導員として、例えば繰り上げるといようなそういうふうにしていくという方法もあるかとは思いますが、そういう方法はあるのでしょうか。

滝井学校教育課指
導主事

お答えします。結果から言いまして、そういった方法も考えているところでは。

外部指導者と部活動指導員の指導できることが異なります部活動指導員は、部活動指導員だけで子供たちの大会、引率等を行うことができるということが、外部指導者との大きな違いということになります。ですので、外部指導者が部活動指導員に変わること、活動指導員だけで部活動を運営すること、指導することができるということで、こういった動きになることも考えられます。

染谷市長

部活動指導員というのは、どういう資格を持っている人たちがなれるのですか。

滝井学校教育課指
導主事

部活動指導員につきまして、必ず必要になる資格はございません。ですが、よりよいという意味で各種スポーツの資格、もしくは文化に関する様々なライセンス等をお持ちの方がなっただけに越したことはないというふうに考えております。

染谷市長

そうすると、外部指導者が部活動指導員に上がっていくためには、こういったことをクリアすればいいのですか。

岩尾学校教育課主
席指導主事

お答えします。部活動指導員は部活動における教員と同じようなことができるので、生徒指導の部分だとかそういったところでも、校長ともよく話をし、校長の管理や監督、指導も受けながら、校長も推

薦できる、引率も任せられるというところを基に、私どもが相談にのり、私たちが認めていくというようにしています。

外部指導者についても、技術指導を行うことを目的に、もちろん人物としてふさわしい方を選んでいるわけですが、ただ、時間的に休日にはできないとか、そういうところの制限もあるものですから、そういう方には外部指導者をお願いをされていて、それにちょっと余裕がありできるという方には、部活動指導員もお願いしていく、こんな形になっています。

染谷市長

そうすると、外部指導者の中にも時間的余裕があつて、学校の先生方が認めてくださるなら、部活動の指導員になれるという解釈でよろしいのでしょうか。

岩尾学校教育課主
席指導主事

そういう解釈でいいです。ですが、報酬が発生する中で、外部指導者のほうが割安でやっていただいているので、そういうお金の関係もあつてそういう配置になっているということもあります。

染谷市長

はい、分かりました。ほかには御意見いかがでしょうか。

森下委員

森下委員、いかがですか。

地域クラブへの移行の話聞いたときに、自分も高校時代にスポーツをやっていて、そこで得た経験だとか、仲間だとか、そういったものが非常に大切で今も付き合っていますし、本当に大きな問題だと思います。

先日の「はたちの集い」でも、答辞を話していただいた金谷中学校の出身の方が、弓道部での体験が自分にとってすごく大きなものになっていると。その後の人生の糧になっているというような話を聞いて、改めてクラブ活動の部分に関しては、丁寧に携わっていかねばいけないというふうに思います。

その中で令和9年までに地域クラブ活動へ移行するというところで、その間、地域連携、部活動指導員、あと外部指導者をお願いしまして、それで一足飛びに地域クラブ活動への移行というのは、各市町が様々ですけども、クリアする問題が多いと思います。

その中で、やはり地域の連携ということをする中で、そのときにその費用的なものというのが、今も部活動指導員になるときに報酬面で問題があるというような話だったのですが、その辺に関しては、受益者負担というような考え方が一般的な考え方として、今進んでいる方向になるのでしょうか。ちょっとそこを確認したいと思いました。

染谷市長
学校教育課

お願いします。

基本的には受益者負担ということで考えています。ただアンケートにもありましたように、3,000円以内というところが一番多かったもので、そのぐらいの金額で果たして地域クラブ活動をやっているかどうかというところは、検証していかなければいけないポイントであると思っております。

染谷市長

ほかにはいかがでしょうか。

教育長、お願いします。

山中教育長

先ほど原委員の質問の中にありましたけども、スポーツ関係にしましては、先ほどスポーツ振興課長からお答えがあったのですが、部活動、休日の部活の地域化を考えると、文化部というのものもあるものですから、そういった意味でスポーツのところでは、高齢化とかいろんな団体さんがいますよという話は聞かせてもらったのですが、その文化の関係の団体みたいなところの感触は、どうだったのかというのは、答えられる範囲で結構ですけども、教えていただけますか。

染谷市長

事務局、お願いします。

佐藤文化振興課長

文化振興課では、文化部のことにつきまして、現在、吹奏楽と美術、それと合唱、この3つの分野について担当の方とお話をさせていただいております。

その中で吹奏楽と合唱については、非常に指導にも前向きなお話をいただいている、ぜひやりたいというふうなお話をいただいているのですが、やはり場所はどこでやるのかであるとか、楽器の運搬であるとか、そういったもろもろの課題がございますので、それは引き続き協議をさせていただきたいというふうに考えている状況でございます。美術につきましては、文化協会にそういった団体がございます、お話をさせていただいているのですけれども、やはりスポーツ同様、高齢化というものを、1つの課題としてお持ちのものですから、自分たちでそんなことができるのだろうかというふうなところで、やや躊躇されているというふうな状況でございます。

以上でございます。

染谷市長

ありがとうございます。

教育長、よろしいでしょうか。

山中教育長

ありがとうございました。いくら地域化といっても、受けられる体制がない中で、やはりそれを進めていくというのは、なかなか難しいというふうに思いますので、やはり地域の皆さんの協力や、また専門家の皆さんの協力がなくて、子供たちを指導していただけるというのは無理なのではないかというところも感じるところでありますので、いろんな方がいるということを知りました。ありがとうございます。

染谷市長

ほかに御意見はございますでしょうか。

高杉委員。

高杉委員

先生方の働き方についてですが、今年度は中学校でも、冬は部活をなしでそのまま下校するようになって、残業時間が大分減ったというお話を聞きました。

私も子供が昨年度まで中学生だったので、先生が大会のとき、朝早くから終日ついて行っただけを見たのを見て、本当に大変だと思いま

した。

もし、休日に部活動が学校から離れるようになると、先生たちの時間が十分取れるようになると思うのですが、具体的に先生たちのメリットがあれば教えてください。

村田学校教育課長

これまでも放課後部活動、そして時間外も部活動という形で平日は行っていました。それがもし部活動の時間がなくなるとすると、今後、例えば子供との対話であったりとか、これは部活動でも対応できるのですけども、それぞれが各クラスの子供たちのことであったりとか、あるいは次の日の授業の準備であったりとか、あるいはその日の授業のもう一度子供たちの作品であったり、提出物を見たりとかして評価をしたりとか、本来の次の日の授業であるとか、そうした授業のところ、あるいは子供との触れ合いですね、そういったところに時間を使うようになるのではないかと思います。

染谷市長
高杉委員

いかがでしょう。

はい、ありがとうございます。自分も同じ大人として、子供を持つ親、家族を持つ親となって考えると、先生方の働き方はちょっと違うかなというのを感じるようになったので、ワークライフバランスというか、自分らしい生き方で、子供と向き合える時間を作っていたらあればありがたいと思います。ありがとうございました。

染谷市長
磯貝委員

ほかにはどうですか。

地域クラブに移行する前の段階で、地域と連携していくとなると、すごくたくさんの人たちと折衝する、打ち合わせするという労力が発生します。

失礼な言い方になるか分かりませんが、教育委員会だけでは、そういうパワーというか、人員的にも足りているのかというところを少し心配します。

これまでいろんな団体の方々と個別に折衝されてきている中で、ひょっとしたら御担当の方もそういうことを感じられているかも分かりませんが、今回非常に多くの利害関係者、関係者がいます。生徒はもちろん、その父兄、それから現場の先生、それと地域の指導者の方々、場合によっては地域の住民の方々、そういった方々と本当に打ち合わせして、お互いに理解し合いながら進んでいかざるを得ないと思うのですけども、そこら辺で杞憂か分かりませんが、心配な点があるので、そこら辺はどうかという素朴な疑問ですけれども。

染谷市長

この件について、教育長何かありますか。あるいは、課長でもよろしいですが。

村田学校教育課長

ありがとうございます。おっしゃるとおりだと常々感じているところですが。

今現在も学校教育課、スポーツ振興課、それから文化振興課等も連携をしながら行っていますが、加えて社会全体のスポーツであったり、

磯貝委員

文化活動というふうになってくると、社会教育課との関連が出てきたりとか。あるいは視点を様々な点に変えていくと、いろんなところでの知恵とか、それぞれの立場から、そうした子供たちの活動を支えていただけるということが生まれてくると思います。そうしたことをもっと広い目で、視野で作っていくということは、今後必要になると思います。

ありがとうございます。とにかく、今は少子化なので、子供がどんどん少なくなってきた。教育委員会も3年くらい前から、今は湯日小学校に始まって、それから北部の4つの小学校と島田第一小学校が統合されてくるという流れの中で、もう避けられない問題だと思います、このクラブ活動のことも。

それで、例えば野球部は、今は一中、二中で合同部活動を作っていますよね。要するに野球をやろうと思ったら、1つの中学校で1つのチームを作れないというような状況になっているということ、私もよく分かりませんでした。おそらく島田市民の人たちで、そういう状況になっているという、少子化がそこまで進んできているという認識が果たしてあるのかという、そこからの問題だと思います。少子化というのは、染谷市長には日常的にこの問題で対応されているので、釈迦に説法で誠に申し訳ないのですが、本当にこれからインフラとか、それから税収も落ちてくるだろうし、この少子化はすごい問題を抱えていますよね。だから本当に慎重に一つ一つやっていかないと、大変な問題になってしまうという、心配ばかりしてしまいます。

ただ、先ほど言いましたように、合同部活動、野球が一中と二中でやっている、それから初倉中と金谷中と川根中がまたチームを作っているというようなことを、ちょっとずつ広げていくということも、1つの方法ではないかと思うのですが、そういう動きというか、可能性はどのようなのでしょうか。

染谷市長
岩尾学校教育課主
席指導主事

はい。

ありがとうございます。御指摘のように、やはり個人でやるようなスポーツについては、そういう心配が、もう少し後から出てくると思うのですが、野球であったり、サッカーであったり、9人がいないと、11人がいないとできないようなところについては、やはり合同にしていくパターンが必要になってくると思います。

先を見越してですね、例えば野球であれば、一中と二中で合わせて9人になるパターンと、一中だけで9人いて、二中は1人だけというパターンも、もちろんあるのですが、一中が10人いるから1回別れますとか、そういうふうに行っていると、年度ごとに何人入ってから別れる、くっつくとなると、非常に見通しが立たないので、一中と二中の野球部についてはくっついて、一緒の1つの部活動としてやっていくということを方針として立てたのが合同部活動です。

染谷市長

今磯貝委員のお話にあったように、今後見通していったときに、おそらく単独でできないだろうというところはピックアップして、合同部活動という形でくっつけていくやり方は、非常に有効かと思います。併せてそこに部活動指導員という教員ではない指導者を当て込んでいくということは、非常にうまいやり方になってくるというのは、事務局の中でも話題になっています。

子供たちの人気のスポーツというか、取り組みたいスポーツというのがサッカー、バスケットボール、卓球、弓道、バドミントン、ダンスというような形の中で、硬式野球のパーセンテージは希望者がすごく少なくなってきたいてですね、野球のまち島田と言いながら、野球を希望する子が少ないというのも、合同チームを結成しなければいけなくなっている理由の1つというふうには思います。

ほかにはいかがでしょうか。

原委員お願いします。

原委員

意見になってしまうかもしれないですけど、合同部活動につきましては、私の地元の川根では、もうずいぶん前から合同部活動で野球のいろいろな大会に出させていただいて、結構結果もよくて、大きな大会にも出させていただいたりしています。

それがなければ、やりたい子供たちがやることできない、野球というものができなくなってしまうという状況だったので、移動は多いですけども、保護者の方もすごく協力して子供の送迎等やったださって、子供たちはとても満足を得て大会を終了することができたと思います。

それから、コンセールギャザーについても、川根では地元の方たちがずいぶん応援をしてくださって、中学生と社会人の演奏、それから高校も含めて川根三町での合同演奏をやったり、そういう地域ぐるみで個人の音楽ではなくて地域としての音楽として、支えるように皆さんが協力してくださっている。それもすごくいい成果を出せているし、生徒自体がとても満足してやっています。

ですから人数が少なくて成り立たなくても、そういうふうな工夫をしながら、とても子供たちの満足感を得られる活動ができているということは、大きな成果であると思います。

これから地域化に向かっていくわけですけども、一度に学校の手を離れて、地域の方たちだけでやっていくというのは、無理だと思います。市で提案された地域の部活動、段階を追いながら、地域と学校と協力して進めていき、令和9年度には学校の手を離れて、地域が何とかやっていって行く方向に行けたらいいというのは、これは願いですけれども思っています。

ただ、例えば二中の18のクラブ活動があって、これを地域の方たちにお願いをしていくということを考えていくと、組織を立ち上げるだ

けでもすごい労力が必要になってくると、磯貝委員と同じことを思いました。

それから人選がすごく大変になると思います。そうすると、組織だけに頼るのではなくて、地域全体に呼びかけて、希望者を集めていくとか、皆さんに知っていただくということが必要ではないかということを感じましたが、いかがでしょうか。

以上です。

村田学校教育課長

全くそのとおりだと思います。これを例えば先ほどの件もそうですが、教育委員会だけであったり、学校だけとか、あるいは市だけでは、なかなか思うようにはいかないだろうと。

当然、各地域においては、例えば少年団であったりとか、あるいは地域のスポーツ団体がそれぞれにあると思います。そうしたところと、話し合いをしたり協議をしたりする中で、中学生を受け入れてもらったりとか、あるいは一緒に活動したりということは生まれてくると思います。

今、それぞれの種目、あるいは団体のそうした実情に合わせながら、どんな形だったら成り立っていくかということ、いろいろと各種団体と協議をしているので、一律に市内全体が同じパターンにはならないと思います。

そういった形で、それぞれに行っていくことが必要だと思っています。今も進めているところでもあります。

以上です。

染谷市長

今、一律には難しいというお話ありましたがけれども。今回、この部活動の地域移行化ということについて、私は自治体ごとにずいぶん状況が違って、隣の町と同じことができないというのが、この地域移行化かと思っています。

また、都市部は受け皿がすごくしっかりしていて、スポーツ団体も民間の団体も施設もたくさんあります。でも、この島田市において、丸ごと全部受け入れられる団体はないわけですから、様々な団体に当たって、部活動の地域移行化の形を作っていくという。

そのために移行期間が、令和7年と言われながら、令和9年までになってしまうというような難しさもあると思いますが、ポイントを絞っていけば、まず受け皿の問題があります。

それから、指導者の問題が、指導者と受け皿同じかもしれませんが、あります。それから負担金の問題があります。

それから、スポーツ系と文化系それぞれが、その競技団体の中でも高齢化の問題などがあって、なかなか受けられないというのはあるのですが、教育委員会としては、幾つか的を絞るとしたら、一体どこがポイントだというふうに思ってるのか、課長の意見を聞かせてもらえますか。

村田学校教育課長

それぞれが課題ですが、何をもって、やっぱり受け入れてもらえるかどうかといいますか、指導してもらえるかとか、関わってもらえるかどうかというところが、まず第一と思っています。

ですので、その団体、サッカーだったらサッカー、野球だったら野球とか、その方たちが中学生と関わられるかどうかという人の問題というのが、最初にくると思います。

その後、お金をどうするかとか、場所はどこにどうするかというような活動に当たっての課題を解決していく。とにかく関わられる団体が付けば、そうした様々な課題、次の課題というものは、おのずと解決に向かっていくということは思っています。

以上です。

染谷市長

つまり、最初に指導していただける、関わっていただける人、団体、これを探す、そこが一番のポイントだということですね。

ほかに御意見ございますか。

森下委員。

森下委員

指導していただける諸団体とか、今度も会議があるというふうにお聞きしていますけれども。保護者さんだとか、あとこれからそういった、部活動を通して、教育を受ける子供たちへの理解の浸透というか、この辺の部活動のシステム自体が変わっていくということに対する理解の浸透具合というのは、どのようなものなのかということと。今後どのような説明を子供たちにしていく予定でいらっしゃいますか。

岩尾学校教育課主
席指導主事

今度、中学校に入学する生徒には、新入生説明会等で、今の段階の見通しだとか、考え方を伝えていきたいと思っています。

併せて例えばスケジュールとして、令和9年度の夏を目標に休日における学校部活動を地域クラブ活動に移行することなどを終始していく必要があるということは、事務局でも話題になっておりますので、連絡協議会とも相談をしながら、できるだけ早く市民の方にも周知をしていくようにしたいと考えています。

森下委員

やっぱり一番大切なのは、子供たち本人だと思われまますので、彼らが部活動を通して教育が受けられるようなそういった受け皿を、僕らは作ってかなければいけないと思いますので、またその辺を十分丁寧によくお願いいたします。

染谷市長

磯貝委員、いかがでしょうか。

磯貝委員

今の中学校の部活の話をしていて、僕はいつも思うのですが、やっぱり高校入試だとか、高校のクラブ活動のこととも関連がですね、どうもしっくりいきませんが、私の頭の中で。島田市内にも高校が5つあります。そういう高校との、例えば部活の段階で何か連携みたいなのができないのかなという、勝手に思ったりしているのですが、

今議題になっているのは中学校の地域化、地域移行をどうしようか

という話のところですけども。その中でやっぱり実態として、スポーツ推薦なんかで高校に入る生徒もいるわけですよね。そういういわゆるスポーツの上手い子、あるいは文化系で優れた技術を持っている子というのは、民間の団体に行ってどんどん腕を磨いて、その道に行くから、別にほっておいていいという話かも知りませんが、一般の生徒も、そういう高校の指導者みたいな人たちと出会えるといいというのが、ジャストアイデアで思ったのですけども。そういう可能性は少ないとは思いますが、ちょっとよく分からない議論で申し訳ないです。

染谷市長

今磯貝委員の御意見の中にもあった、高校進学に内申書だとか、あるいはそのスポーツ推薦だとかという、部活動の実績というのも結構大きくあったと思うのですけど。そういった取り扱いはどうなっていくのですか。

村田学校教育課長

これからのことについては、まだ未定の部分というのは、あるかと思いますが、学業もあれば、いろんな活動もあれば、部活動であったり、いろんな子供たちはそれぞれのところで頑張っていますが、それぞれの子供たちの特色といいますか、頑張っているところとして同じようにして見て評価をして、高校は進学のほうを決めていると思いますが、特化して何々ということはないと思います。それはもちろんこれからも変わらないと思います。

ボランティア活動で頑張っている子はその部分を評価する、例えばピアノがとても得意な子は、そこの部分を1つの特徴として評価するし、これはスポーツも同様に評価をされていた。

以上です。

染谷市長

分かりました。ほかにはいかがでしょうか。

どうでしょう、教育長ありますか、お願いします。

山中教育長

部活動の地域化を考えると、1つ大きく考えないといけないことが、今後基本的には部活動は全員参加するものではなくて、希望者が参加するというのが、大前提にあるのではないかというふうに思います。

そして、今いろいろな話が出されていますけども、結局受け入れの体制があるのかどうか。そして、子供たちが実際そこに入ったときに、今までやっていたような同じような満足感がきちんと得られて、将来に向かって、よしやるぞというような気持ちになるのかどうかといったところも考えていけないといけないと思うものですから、希望する人たちが、その受け入れ体制が、どういうふうにして我々がそろえてやれるかということが、一番大事ではないかと思います。

もちろんお金のこととかもあるのですけども、それは基本的には受益者負担ということを考えながら、子供たちのためにどういう部活にしていくかといったところを、きちんと押さえていく必要があるのだら

うし。もしかすると、部活ではなくて本当にお稽古みたいな形で子供たちが満足するといった形も、これから考えていかないといけないと思いました。

学校教育課

今も出ています部活動の数を見てもみますと、例えば、剣道、水泳は、二中にしかありません。そこについては、もしかするとその団体にお問い合わせすればやっていただけるのではないかというそういう期待もありますし、そういうふうに見ていくと、そんなに令和9年度まで待たずに、できるものもあるかもしれないというふうに思ったものですから、少しずつできるものから相手と相談しながら、子供たちの要望を聞きながらと言うようなことが可能ではないかと思ったのですが、そこら辺の現実味というのはいかがでしょうか。

おっしゃるように、できるところから進めていくというふうに考えていきたいと思います。今御指摘のあった剣道とか水泳とか合唱とか、1つしかないというところについては、より具体的に動きやすいところではありますので、また関係団体と協議を続けていきたいと思っています。

染谷市長

スポーツ協会だとか、文化協会とか以外に、例えば私のところにもよくプロサッカーチームであるとか、いろんなスポーツクラブが部活動の地域移行に向けて、うちは引き受けることができます、という売り込みも時々いただきます。幾つかの団体からそういう売り込みもあるのですが、でもこの負担金が3,000円までとなると、なかなかこれが難しいのではないかというふうに思っていて、もしかしたら部活動の地域移行化というのは、新しい産業としてターゲットにしているところもあるのではないかという気までするのですよね。これは都市と地方で大きく違うのかもしれませんが、地元にあるNPO団体であるとか、そういったところの声も聞きながら、特に島田は1つのところに頼めません。スポーツごとに指導していただける方たち、そしてまた地域ごとにそれも変わっていくというような複雑な過程の中で、部活動の地域移行化を考えていかなければならないというふうに思っています。

また、地域クラブ活動の前に、地域と連携しながらというのが、移行をスムーズにしていくための段階というところも、まさに関わる人が大勢いないと難しいという現実もあって、まだまだ地域部活動の件について、我々はこうした話し合いを続けていますけれども、一般の市民の方々には、どれぐらい浸透しているのか。例えば、高杉委員は昨年まで確か中学生のお子さんがいらっしまったわけですよね。保護者の方々のいろんな雑談の中に、地域部活動の話が出てくるかとか、地域の中でどのぐらい浸透していると思われるかとか、そのあたりの御意見ありましたら聞かせていただけますか。

高杉委員

私の子供のときはコロナもあって、ほぼほかの保護者と話す機会も

なく、地域クラブ活動についてもそこまでは出てなかったもので、ほとんど話は出ていませんでした。

でも、どの親もそうですけど、自分の時代の部活動と今の時代の部活動はやっぱり比べることがあって、先輩と後輩とつながりを学ぶ場だったとか、もちろん技術も学んだとかいろいろありましたけど。新たな地域クラブ活動というのは、最初はどうしても今までの部活と比較してしまうかもしれないですけども、新しいものだというふうに伝えていかなければならないかというふうに思います。

先輩、後輩だけではなく、これは地域のリーダーさんにつながるチャンスでもあるし、ほかの学校の生徒ともつながるチャンスになるのではないかというふうに思います。

染谷市長

ありがとうございます。ほかにはいかがでしょうか。もし御意見があればお聞かせください。よろしいですか。

そういたしましたら、そろそろ意見そして御質問は出尽くしたようでございます。今日のお話、私はこのテーマというのは、1回や2回で結論を得られるテーマではないと思います。年間を通して、あるいは来年度も再来年度も、継続的に島田市における地域部活動の在り方ということについて、今後も協議を重ねていきたいというふうに思いますし、それから、学校教育課長からまず最初に課題なのは、団体の皆さん、あるいは協会の皆さんも含めてですが、指導していただけるのか、そういう人を探せるのか、関わっていただけるのかということから始まって、場所のことやら負担金の話になると、まずそこからだというお話が出ました。

そしてまた地域クラブ活動への移行というのは、そこに関わってくださる方々、そして地域の理解こういったものもないとなかなか難しいということ。そしてまた実情に合わせてどんなやり方でやれるのかということの模索、まさに島田市型の地域クラブ活動の在り方というのを探していかなければいけないのではないかというのが、今日の皆様方の御意見だった気がいたします。

本日議論いただきました課題や対応などを踏まえて、中学生にとって望ましい地域部活動の在り方について、今後もしっかり取り組んでいただきたいと思っておりますし、またこうした場で、公に協議する場が何度となくあることを願っております。

では、そのほかのことで全体を通して、何か御意見、あるいは御発言がありましたらお願いをいたします。

いかがでしょうか。

磯貝委員、お願いします。

磯貝委員

これは染谷市長にお願いですけど。やっぱり関係者が大変多いということと、地域住民の人たちの理解も十分やらなければいけないという面がありますので、ぜひ広報しまだの羅針盤辺りで取り上げていた

染谷市長
磯貝委員

だきたいという希望ですね。

はい。

あとは結構アナログですけども、私の町内は回覧板が結構役に立っています。ああいうところの周知も合わせてやっていくといいのではないかというお願いですけども、よろしく願いいたします。

染谷市長

はい、かしこまりました。

ほかにはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、本日の議事は全て終了いたしましたので、まず進行を事務局にお返ししたいと思います。お願いします。

佐藤市長戦略部長

はい。皆様、長時間にわたりましてありがとうございます。本日予定していた内容は全て終了いたしました。

以上をもちまして、第2回総合教育会議を閉会させていただきます。

本日はお忙しいところありがとうございました。お疲れさまでございました。

閉 会 午後2時50分